

東海市立平洲小学校 住 所 東海市荒尾町片坂1番地 電話番号 052-603-0024 児童 774名 校長名 田川 弘樹 ｸﾗｽ31学級(内特支7)			○教育目標 ・心をはぐくみ 体をきたえ たくましく生きる児童の育成 ○地域の特色 ・開校118年の伝統があり、平洲コミュニティを中心に各関係団体がまとまっており、学校への支援も協力的である。 ○…増加 ◎…増加(5%以上) △…減少 ▲…減少(5%以上) ◇…微増減(横ばい 1%以下)
---	--	--	---

中期目標	今年度の目標	評価方法(アンケート項目)	結果の分析	課題と対応策	学校支援協議会評価【実施日】令和8年2月24日	来年度の改善策(誰が何をどうする)
確かな学力の保障 (評価A)	<ul style="list-style-type: none"> 児童理解(思考・行動)を基盤にした授業構築 ICT機器の効果的な活用 	教師 11, 12, 13 児童 10, 11, 12 保護者 6	(1)教師結果 11「授業では、基礎基本の徹底を図っている」 ○1.0%増加(91.3%→92.3%) 12「子どもの意欲を引き出すような、分かりやすい授業を実践している」 ◎10.5%増加(87.0%→97.5%) 13「現職教育の主題を意識した授業づくりに努めている」 ○2.9%増加(86.9%→89.8%) (2)児童結果 10「先生の授業は分かりやすい」 ○1.5%増加(88.8%→90.3%) 11「授業では話をよく聞き、よい姿勢で受けている」 ○4.7%増加(71.0%→75.7%) 12「授業では、進んで学習に取り組んでいる」 ○1.0%増加(75.8%→76.8%) (3)保護者結果 6「先生は、分かりやすい授業をしている」 △3.3%減少(75.5%→72.2%)	<ul style="list-style-type: none"> 今年度より児童の学習意欲向上を目指し校内の研究授業に取り組んでいる。授業に取り入れる方法を明確に示したことにより、共通のイメージができ、教師の自己評価が向上している。 児童10で9割超の児童が肯定的に回答していることをはじめ、児童の数値の向上は教師の結果を補完している。 保護者6は、「分からない」が減少分とほぼ同数増加している。授業の様子を家庭へ伝える方法に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の自己評価が向上したことは安心できた。 児童の評価が向上したことから、授業に工夫がなされており、うまく授業を進めていると捉えられる。 関わる機会が減っているのか、公開日に来ていないのかといった保護者の「分からない」にスポットを当てる。 教員の年齢層が下がっているので、学年の教員間で授業や行事について共通認識を持てるようにするとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度に引き続き、授業研究の目標、目的、手段について全職員で共通理解を進める。 今年度に引き続き、目標を達成するための具体的な手立てについての検討を全職員で進める。 「心豊かな人間性の育成」や「家庭連携」とも関わりが深いので、教務主任を中心に、学年主任者会や現職教育委員会、学習指導部会で学校公開日の設定(回数、教科、時間帯、曜日など)を精選し、学校の様子を伝える機会を増やす。
心豊かな人間性の育成 安心・安全な学校づくり (評価B)	<ul style="list-style-type: none"> 正しい価値観のもと、自ら考え行動する児童育成のための場の創成 困難を抱える児童の理解と適切な指導支援 	教師 4 児童 3 保護者 10, 12 教師 2, 6, 7, 児童 2, 6, 13, 14, 15 保護者 2, 3, 7, 11	(1)教師結果 4「子どもはルールを守って学校生活を送っている。」 ▲5.9%減少(67.4%→61.5%) (2)児童結果 3「学校のきまりを守って、学校生活を送っている」 ○4.7%増加(83.5%→88.2%) (3)保護者結果 10「お子さんは、学校や社会のルールを守っている」 ◇0.0%増加(87.7%→87.7%) 12「家庭では、お子さんに『いけないことはいけない』ときちんと教えている」 ◇0.5%減少(96.2%→95.7%) (1)教師結果 2「子どものよいところを認め、褒めている」 △2.6%減少(100.0%→97.4%) 6「互いに助け合い、励まし合う心を育て、いじめのない集団づくりに努める」 ▲5.1%減少(100.0%→94.9%) 7「子どもの言葉に耳を傾け、親身になって児童理解に努めている」 ◇0.0%(100.0%→100.0%) (2)児童結果 2「毎日の学校生活が楽しい」 ○3.6%増加(81.1%→84.7%) 6「やさしい言葉かけや思いやりのある行動を心がけている」 △1.9%減少(85.1%→83.2%) 13「先生はがんばったことをほめてくれる、みとめてくれる」 ◇0.2%減少(81.6%→81.4%) 14「学校で困ったことがあったとき、相談できる先生がいる」 ○4.8%増加(70.2%→75.0%) 15「学校行事では、みんなと協力して行っている」 ◇0.4%減少(90.2%→89.8%) (3)保護者結果 2「お子さんは、学校生活を楽しんでいる」 △2.0%減少(87.1%→85.1%) 3「お子さんは、学校行事で活躍している」 △1.3%減少(65.5%→64.2%) 7「学校は、子どものよいところを認め、褒めている」 ▲5.3%減少(77.7%→72.4%) 11「学校は、思いやりの心を育て、いじめのない学校づくりに努めている」 △1.3%減少(63.2%→61.9%)	<ul style="list-style-type: none"> 学校が楽しいと感じている児童や、困ったときに相談できる先生がいる児童、学校が好きだという児童は増加している。 教師2、6の減少から、児童に自分で考えさせ、成長を促すための支援よりも注意や指導することが中心になっていると読み取れる。保護者7も同様の傾向を示している。 規範意識を問う設問において、教師4のスコアが下がっている。児童3は増加、保護者10、12は横ばいである。規範意識向上のための支援が不足していることを示していることに加え、学校と家庭に意識の乖離があることを示しており、共通認識を進めることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめについて一人で困難を抱えている教員がいるかもしれない理由を掘り、対策するべきである。 教師6の低下は、「いじめが解決済みでなければ肯定的回答ができない」という意識が教員にあるかもしれない。調査時点で解決かどうかでなく、積極的に認知し、早期に把握し解決に向けて尽力することが大切である。 いじめのない学校はない。学校一丸となって協力して解決していくと良い。 学校の困り感を保護者にどう伝え、協力を依頼するかを考える必要がある。 児童の心のケアが不足している。 児童の良いところを保護者に伝えたい。 「相談できる教員がいる」児童の数値が向上したことは良いが、依然1/4は相談できない状態であることが心配である。 図書室に相談コーナーを用意し、気軽に訪れる場所にするとうい。 他者を思いやる心、自分で考えて行動する力を付けていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活指導主任及び生活指導部会を中心として、規範意識の向上を支援していくことを全職員で共通理解し、継続的で統一的な指導を教育活動全体を通して粘り強く続ける。 いじめについて注意深く児童を見守り、気付いたときには積極的に認知し、早期解決に向け対策することを周知し、共通理解して指導する。 学校での指導を家庭へも随時連絡し、実態を伝えながら課題を共有し、同一歩調で児童を育成していく。 学校教育目標の「全職員で全児童を育てる」を強化し、相談できる教員がいる、安心できる学校とする。 学校の様子や思いを伝える機会を増やすため、学年懇談会や学級懇談会など、保護者と教員が直接向き合う機会を引き続き設定する。 児童が認められていると感じる場面を増やすため、全職員が肯定的な声掛けをし、それぞれの良さが児童に伝わるように具体的に認め褒める。
健康の増進 体力の向上 (評価B)	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の指導の充実 環境への配慮が行き届いた学校 体育科授業及び体育的行事等の取組の充実による体力向上 	教師 3 児童 4, 5 保護者 13, 14 教師 9 児童 8 保護者 4 教師 8 児童 9	(1)教師結果 3「子どもは元気よくあいさつをしている。」 ○1.2%増加(78.3%→79.5%) (2)児童結果 4「早ね・早おき・朝ごはんなど規則正しい生活を心がけている」 △3.9%減少(71.3%→67.4%) 5「自分からすすんであいさつをしている」 ▲7.5%減少(83.5%→76.0%) (3)保護者結果 13「家庭で、お子さんは早寝早起きなど規則正しい生活を送っている」 ◇0.2%減少(80.7%→80.5%) 14「お子さんは、家庭や学校、地域などであいさつをしている」 △2.7%減少(77.1%→74.4%) (1)教師結果 9「安全・安心に過ごせるよう教室や学校環境の整備に努めている」 ◇0.3%減少(97.8%→97.5%) (2)児童結果 8「けがをしないよう安全に気をつけて生活している」 ○2.2%増加(81.4%→83.6%) (3)保護者結果 4「学校は、子どもの健康や安全に配慮し、適切な対応をとっている」 △1.2%減少(79.0%→77.8%) (1)教師結果 8「外で遊ぶように勧めたり、体育の授業で運動量を確認したりと子どもの体力向上に努めている」 △4.8%減少(86.9%→82.1%) (2)児童結果 9「学校では、外で元気よく遊んだり、体育の授業ですすんで運動したりしている」 ○2.9%増加(75.0%→77.9%)	<ul style="list-style-type: none"> 教師3より、あいさつ運動の工夫等により、校内でのあいさつは活性化しているが、児童5、保護者14から、児童は自発的なあいさつではなく、受動的にあいさつを返している状態であると読み取れる。自発的なあいさつを促す支援が必要である。 今年度は専科を活用し体育科授業の専門性向上と運動量確保をした。結果、児童は運動増進を実感できているが、授業を受け持たない担任の意識は下がっていることが読み取れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域で見かける児童は良くあいさつをしてきている。 あいさつや規範意識の低下については本来家庭で教えるものである。学校から家庭へ現状を伝え、親が指導を担うようにしたい。 学校が熱中症やハラスメント対策など、多くのことに気をつけて対応していることがよく伝わってくる。 アジア大会を契機に、スポーツの楽しさを教えてあげたい。 不審者対策など、知らない人への接触が否定される社会なので、地域との関わりを減少に伴いあいさつができなくなっているのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内だけでなく、地域、家庭でも自分からすすんであいさつできるよう根気強く指導していく。 自分からあいさつすることの良さを感じられるよう、委員会のあいさつ習慣などの取り組みでは自分からできている子を奨励する。 運動会や逆上がり月間やなわとび週間などの体育的行事や、外遊びの奨励など、児童も教師も一緒にできる体力づくりの取り組みについて検討する。
家庭連携 (評価B)	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連携・協働 	教師 5, 14 保護者 5, 8, 9, 15	(1)教師結果 5「報告・連絡・相談をし、学年、学校で連携・協力して迅速な対応に努めている」 △2.5%減少(100.0%→97.5%) 14「保護者との意思疎通を積極的に図り、保護者の願いや声を理解している」 ◎5.8%増加(89.1%→94.9%) (2)保護者結果 5「学年・学校だよりやホームページ(ブログ)、授業参観を通して、学校の様子が分かる」 ○2.4%増加(72%→74.4%) 8「学校は相談しやすく、問題が起きたときにすぐに対応してくれる」 ▲6.8%減少(75.8%→69.0%) 9「学校からの依頼があれば、できるだけ協力したいと考えている」 ◇0.3%増加(74.9%→75.2%) 15「学校公開や学校行事に積極的に参加している」 △2.3%減少(91.6%→89.3%)	<ul style="list-style-type: none"> 教師14から、家庭との連携に対する教師の意識は向上していることが読み取れるが、保護者8の減少について重く受け止めた。教員の働き方改革推進と合わせて考え、児童が学校で安心して生活できるよう一層の工夫が必要である。 学校ブログを各学年週1回以上更新することを続けたことや、学校からのおたよりを精選した結果、学校の様子が分かるという回答した保護者が微増した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校内外といったエリアでの明確な線引きと、その認識のずれが教師、保護者ともに動きにくくしているように感じる。 働き方改革が、「教師が楽をするためのもの」というように間違えて認識されている。主旨の周知が重ねて必要である。 学校だよりの改革は斬新だった。従来からの形に囚われない、新しいアイデアだった。保護者への情報伝達のツールとして、様々なことを同様の目で見直していけると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ブログ更新を全職員で行うことを今年度に引き続き一層強化し、学校の様子が保護者や地域へ伝わるようにする。 学校から保護者への情報伝達では、丁寧な説明を心がけるとともに、効果を踏まえ、媒体や文面を選択するようにする。 保護者からの相談に迅速に対応できるよう、報告・連絡・相談の徹底を進め、担任でなくても相談できる、問題への対処ができる学年、学校組織の構築を図る。